

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社R-CORPORATION

②施設・事業所情報

名称：幼保連携型認定こども園すこやか	種別：認定こども園	
代表者氏名：小林 祐子	定員（利用人数）：本園227名、分園23名	
所在地： 本園：〒252-0242 相模原市中央区横山4-12-14 分園：〒252-0239 相模原市中央区中央4-12-1		
TEL： 本園：042-752-8184 分園：042-704-8637	ホームページ： https://sukoyakahoikuen.jp/	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：1969年02月01日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 さがみ愛育会		
職員数	常勤職員：71名 非常勤職員：23名	
専門職員	（専門職の名称）：名	
	保育教諭：78名 看護師：1名	
	栄養士：1名 調理師：3名	
	社会福祉士：1名 臨床心理士：1名	
施設・設備 の概要	（居室数） （本園）：乳児室3室 （分園）：乳児室3室 （本園）：保育室7室 （本園）：ほふく室（乳児室含む）	（設備等） （本園）：遊戯室1室 （本園）：調理室1室 （本園）：調乳室1室 （分園）：調乳室1室 （本園）：沐浴室1室 （分園）：沐浴室1室 （本園）：医務室2室 （本園）：事務室1室 （分園）：事務室1室（医務室含む） （本園）：一時保育室2室 （本園）：屋外遊戯場

③理念・基本方針

<法人理念>

愛の精神

<園理念>

『つよくて やさしい すこやかな子ども』を育む

—「関係保育」—を基本として

<基本方針>

1. 安心できる環境
2. ゆたかな体験
3. すこやかな育ち

④施設・事業所の特徴的な取組

<幼保連携型認定こども園すこやかなの特徴的な取り組み>

1. 障がい児の受入れと「関係保育」
2. どんご遊び
3. 多彩な教育・保育プログラム
4. 食育
5. 多彩な生き物とのふれあい
6. 新型コロナウイルス感染防止対策

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2020年11月11日（契約日） ～ 2021年03月31日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	3回（2014年度）

⑥総評

【幼保連携型認定こども園すこやかなの概要】

●幼保連携型認定こども園すこやかは、社会福祉法人さがみ愛育会（以下、法人という）の運営です。JR相模線上溝駅から横山公園沿いに徒歩15分の所に位置しています。法人は、昭和16年、法人系列園「愛の園ふちのべこども園」の前身である「愛の国保育学校」の開園をスタートに、戦後の混乱期に創始者「松岡 謹」の創設理念である「愛の精神」をベースに生まれた法人です。松岡 謹は明治、大正、昭和、平成の時代を生き抜き、これまでを築いた福祉の情熱は2代目理事長 松岡 俊彦（現さがみ愛育会会長・総合施設長）へと受け継がれました。理事長は、高齢者福祉、障がい者福祉へと原点の児童福祉からつなげ、笑顔の輪を広げ、法人の理念をより確固たるものとししました。そして、3代目理事長として認定こども園すこやかなの施設長が就任し、70年の歴史の背景と共に、揺るぎない「愛の精神」を今なお高く掲げ、笑顔で日々を過ごす福祉サービスを大切にしてい日々、尽力しています。現在、法人は保育事業、高齢者支援事業、障がい者支援事業、その他自立支援事業等、11福祉事業を幅広く展開し、「愛の精神」の世界を広めていくことを目指し、法人の未来へと大きくつなげています。

●認定こども園すこやかは、1969年に開園し、分園の「はぐくみ」を含めて定員250名の大型施設であり、1号認定（幼稚園型教育標準）定員15名、2・3号認定（保育園型保育標準）定員235名の認定こども園です。1号認定については保育園型の中に組み入れ、3歳、4歳、5歳のクラスと一緒に保育（教育）を行っています。保育方針は、「安心できる環境」、「ゆたかな体験」、「すこやかな育ち」を掲げ、特に、長年にわたり支援を必要とする子どもが多数在籍する園として、例年全体の1割以上の要支援児が在籍し、前園長の小林和雄が提唱した「関係保育」の思想の基、仲間と共に園生活を楽しんでいます。これもこの園の大きな特徴として、園の使命として豊かな愛情を持って取り組んでいます。

●施設長は無駄を省き、効率化を図っています。業者に依頼する簡単な設備等に関しては出来ることは職員一人ひとりが持つ能力・技量を生かし、副園長の技術指導の下、協力して手作りで園舎内の設備や制作を行っています。丸太のベンチや、多種の遊具、廊下には踏むと色が変わるステップ等、全て職員の手作りです。園舎入り口の水槽では

亀、ザリガニ、金魚、ドジョウ、ウーパールーパー、熱帯魚等、様々な生きものを飼育し、また、犬や猫、鳥、うさぎ等が人々を出迎え、その小屋や棚等も手作りで設置されています。しかし、それら本来掛かる設備費用は人財・職員への還元に替える意向とし、効率化の裏には職員への「愛の精神」がしっかりと息づいています。

◇特に評価の高い点

1. 【意識的な中間管理職の育成】

●認定こども園すこやかでは、意識的な中間管理職の育成を園の体制とすべく構築に向けて推進しています。一般企業においても中間管理職の役割と育成は組織の重要な課題の1つであり、ミドルマネジメントとも呼ばれ、現場の仕事に精通しながらも経営者目線で事業の進捗を把握し、指示を出す立場です。中間管理職の役割は、経営層の意志や戦略を現場の管理者に伝達することで、経営層と一般職員の橋渡しを行う大切な役職です。また、部下の育成や教育、マネジメントも、中間管理職の大切な役割の1つです。認定こども園すこやかでは、中間管理職候補を組織としてのリーダーに据えています。本来のリーダーを教育係にし、中間管理職の育成を「組織」と「実務」の側面から推し進めています。選ばれた中間管理職候補は実力と実績があり、さらに実務を覚える経験は尊く、業務の改善、目標達成への進捗管理等へつなげる組織のリーダーの活躍に期待が寄せられます。

2. 【高齢者、障がい者（児）との交流】

●認定こども園すこやかは、複合型の施設であり、毎年20名前後の身体的障がい児、知的障がい児の入園を受け入れています。定員の8%に相当する人数であり、園児たちと一緒に楽しい園生活を送っています。園舎3階の生活介護支援事業所「のびやか」を利用する障がい者の方々との交流もあり、子どもたちが作業（木工、陶芸、パン作り等）の様子を見学したり、教えてもらったりしています。認定こども園すこやかの子どもたちは、日頃からノーマライゼーションが自然と身に付き、地域の中で「お互いを支え合い、ふつうに暮らす」日常の実現を担う子どもたちへと成長します。認定こども園すこやかでは、統合保育を実施し、そして、インクルージョン教育として障がいのある子どもの学びが広がるだけでなく、障がいのない子どももコミュニケーション等を深く学ぶことができ、人々を違いで分けるのではなく、個性を持った人々が入り混じり、共に受け入れ合える関わりを経験しています。卒園後の子どもたちは、やさしい社会を作り出せる大人へと成長することと思います。

3. 【泥んこ遊び】

●「泥んこ遊び」は自閉症の子どもから教わったと施設長からお話を伺いました。自閉症の子どもは他児と交わらず、保育士とも話さず、園では一人で過ごしていたそうです。ある雨が降った翌日、園庭に水たまりができ、その子どもは水たまりへ行って水と泥を捏ね、とても嬉しそうに遊び始めたそうです。そこへ、他の子どもたちも面白そうと混ざり、自閉症の子どもは皆と楽しく遊んだそうです。この光景を見た施設長は、「子どもたちに泥んこ遊びをさせてあげたい」と思い、保護者へ泥んこ遊びを提案し、説得しました。徐々に保護者も理解を示し、汚れても良い服を準備してもらえるようになったそうです。そして、園庭に井戸を掘り、殺菌した井戸水を使って泥んこ遊びを行うようになり、今では、泥んこ遊びの写真がホームページを飾る等、認定こども園すこやかのオリジナリティ溢れる活動の1つになっています。

◇改善を求められる点

1. 【意識的な中間管理職の育成の進捗】

●前述の「特に評価の高い点」で挙げた「意識的な中間管理職の育成」ですが、様々なハードルもあります。先ず第1には余裕ある職員体制の構築です。本来はリーダーであるべき人材を、若手を生かす教育係として配置することは、そうそう他では真似ができない体制への推進であり、実際には保育力の低下につながるリスクも併存します。上層部と部下、両者のまとめ役を担う中間管理職の育成に向けて、中間管理職候補となる職員自身が現場の思いと組織の推進の板挟みにより、本人自身のマネジメントが疎かにならないよう、より細やかなメンタルケアに配慮されることを願い、次世代リーダーの育成に期待をいたしております。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

施設名：幼保連携型認定こども園すこやか

<評価に取り組んだ感想>

今回の第三者評価、誠に有り難うございました。受審に際しましては、年度初めからのコロナ禍で緊急事態宣言期間中となり、予定通りに実施して頂けるか大変危惧される中で、日時の変更を含め、感染予防対策をとりながら確実な調査をして頂き、感謝しています。

評価を頂き、改善点については確かに受け止め、分析してより良い方向に向けての取り組みをしていきます。今回の課題については今、当園が取り組む中で見えてきたポイントでもあります。職員の育成向上は園の質の向上になります。安心する環境の下で、自分らしくすこやかに生きる力を持つ子どもの育ちを大切に、これからも日々、尽力して参ります。評価をありがとうございます。

<評価後取り組んだ事として>

1. 取り組み中の中堅職員育成をより丁寧に取り組み、的確で温かなフォロー体制をより確実に行うことにしました。中堅職員や若手の職員は意欲を持ち、職務に当たり、スキルを磨く努力をすることで教育、保育内容の充実や保護者対応に尽力していきます。様々な取り組みにおいても、スムーズに進めるように主任等の支援体制を確実にクラス主任が責任を持って進めています。より良い教育、保育内容は大人同士の関係性がとても大切である事を職員全員で共有し、互いを認め、受け入れあえる関係性を大切にしていきます。

2. 利用者アンケートにもありました給食についての幾つかのお声について

・「手作りおやつが少ない」について、分かりにくい献立表を見直しました。週4回の手作りおやつの表示に手作りマークを記すことで、保護者からも分かり易くなったとの声を頂いています。

・「土曜日給食メニューを平日にも取り入れてほしい」の声にも対応し、現在は平日に取り入れることにし、改善をしています。

- ・「行事の際の乳児へのチョコレート菓子について不安」の声に、通常のおやつ以外のイベントの“お楽しみ”を乳児組はラムネ等に変更をしています。

食育は当園の大切なテーマでもあり、食べる力は子どもの発達に大きく影響し、生きる力になることを更に進め、栄養士、調理師と保育現場と細やかに連携をしていきます。

3. 防犯体制への不安について

今年度の改修計画として外壁塗装、エアコン全機取り換え、そして暗証番号付き門への取り換えを行うこととして、半年前より保護者にもお知らせし、1月からの工事で不審者対策を講じました。防犯カメラの増設や園外散歩などの連絡ツールとしてIP無線機を数台購入し、活用しています。

4. 職員の保護者対応において、体調や怪我等の伝達以上に日々の様子を伝え共有して子育てをしていく意識を更に職員が自覚し、互いに信頼感を持ち、笑顔での交流を目指しています。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり